## 東京大学史料編纂所とのデータベースの連携

2005年２月に公開した木簡画像データベース「木簡字典」（http://jiten.nabunken.go.jp）は幸い多くの利用者を得ています。このたび、東京大学史料編纂所が公開しているくずし字のデータベース「電子くずし字字典」との連携を図ることになり、去る５月29日（金）、東京大学福武ホールにおいて、奈文研の田辺征夫所長と東京大学史料編纂所の加藤友康所長との間で連携に関する覚書を締結しました。

「木簡字典」は古代の出土文字資料の代表選手である木簡の文字、一方「電子くずし字字典データベース」は中世・近世の紙の文書のデータを中心とする文字の字典です。今回の連携は、共通の検索システムを設けて、両データベースの検索結果を同時に表示できるようにするものです。このシステムが実現すれば、古代から近世まで千年にわたる日本の文字の変遷を一覧できることになり、既に定評のある両データベースの利便性がさらに大きく向上します。現在、今秋の公開に向けて準備を進めていますので、是非新しい日本の文字の世界を訪ねてみてください。

奈文研と史料編纂所とは、薬師寺の古文書調査を共同でおこなってきた実績があります。今回のデータベースの連携は、考古学と日本史の研究拠点相互の連携として画期的なものです。こうした研究工具は、機関の財産であると同時に、国民の財産でもあり、それらの連携は研究機関に課せられた責務でもあります。今回の連携はその先駆的な事例として重要な歴史の１頁を飾ることになるでしょう。

（都城発掘調査部　渡辺 晃宏）

握手を交わす加藤所長（左）と田辺所長（右）